

人格の完成を意識した実践をする

いずみ学力研 金井 敬之

学力形成と人格形成

学力形成と人格形成の関係は、ずっと以前から教育実践の課題とされてきた（と思う）。

ただ、学力とは何か、人格とは何かということを定義することは、それぞれの研究者や実践家の考え方やとらえ方の違いがあり明確にすることは困難である。

今回は、学力形成を読み書き計算の学力の基礎とテストなどで表される学業成績を高める取り組みと考え、人格形成を将来大人になっても通用する力や人間として価値のある生き方ととらえることにする。

以前の自分自身の実践を振り返ってみて、学力と人格の関係を強く意識して実践したことはなかった。学力がくと人格にもいい影響を及ぼすのだらうと漠然と考えていた。実際、学業成績がいい子たちは、落ちこぼる学力が低い子は落ちこぼるのこの

と、友だちにもやさしい、素直な子が多いというのが、実感だからである。

2年前、4年生を担任した新学期早々、「教育の目的は人格の完成である」ということを改めて意識する出来事があった。それは、初任者の先生に「宿題忘れをしたときどう指導されていますか?」と尋ねられ、その質問に答えたことがきっかけである。

宿題を忘れたら何は

ぼくは次のように答えた。

「ぼくのクラスでは、宿題と連絡帳を教卓に出すことになっている。宿題忘れに気がついたら、忘れましたと先生に報告する。」

そして、1時間目が始まる前や大休憩までにするものになっているよ。」「もちも、『宿題をしたけど持って来るのを忘れたときはどうするのですか?』」「とわりわり聞かれた。「持って来ないのを忘れたら

も、『もう一度しましょ』と聞いちゃうよ。』大人になって、会社に勤めたときも、書類を仕上げましたが、持って来ないのを忘れちゃったといっても通用しないです。」「とぼくは答えた。

間違いや失敗はごまかさずに報告をして、その日のうちに改善する。そのことは、社会に出ても大切なことである。人格の完成につながることを。

席替えをどうするか

席替えは、毎月一回ぐらい引きで行っている。視力の弱い子の配慮はもちろですが、席替えはくじ引きである。だれと席が近くになっても協力して過ごせることは、大人になってもいろいろな人と仕事ができる人間になれると考えているからである。このことも、人格の完成につながることを考えている。

30秒スピーチ

2学期の始業式の翌日の300日に夏休みのできごとを話す「30秒スピーチ」をみんなにしてもらった。荒井賢一先生の追試である。「時計を見ながらスピーチをして、20秒以上から30秒以内なら合格です。」

時間におさまらなかつたら、もう一度やり直しをします。家で時計を見ながら練習しまじょう」と言つて前日の宿題をした。

夏休み明けの30秒スピーチには、ねらいが2つある。

ひとつは、みんなの夏休みのできごとを知るじよである。(遠くへ旅行したことだけがいい夏休みではありませんよ。とれだけ充実していただかが大事ですよと事前に話している)

ふたつめは、30秒スピーチのために、練習をして本番に臨むことの大切さを伝えたいことだ。

30秒スピーチのために、時計を見て何度も練習する、原稿を作るなどの努力をしてほしいと思つた。実際、紙に話すことを書いてきた人が13人いた。えらいなあと思つた。前日に準備をしても、当日緊張をうけてしまつて合格できないこともある。逆に、準備をしないで本番を迎えても、たまにたまつまくつとくこともある。だからいつて練習しなへてもうとつとつとくどはなし。この結果にたいして話したことはないが、それ以上に練習や準備が大事である。

要領の良さや幸運もいいことだが、やはり事前の努力が大切だと思つた。

「努力は必ずしも報われるとは限らないが、その努力は決して無駄にならない」といつのが、ほくの考えた。(最近、「努力は必ず報われる。報われない努力があるとすれば、それはまだ努力をしていないのである」といつ言葉を知つた。世界のホームラン王、ソフトバンクの王貞治球団会長(76)の言葉である。自分の甘さを恥ずかしく思つた。努力の天才と凡人のちがいである。)できることはもちろん値打ちのあることだが、努力すること、伸びよつとすること、を大事にしてほしいと思つている。

基礎計算と漢字練習

基礎計算の習熟の取り組みでも、計算の時間が速くなることだけでなく人との競争ではなく過去の自分との比べる、上達した友だちを評価するといふ、新たな価値づけをすることによつて、計算練習にも、人格の完成につながることを意識させた。先日、クラスのS君の100マスタイムを4分54秒から3分55秒に1分近く縮めたとき、隣のMくんが「すげー、はやくなつた

な」と声をかけていた。自分の計算が終わつたあと、心配そうにS君のプリントをのぞき込んでいる。「君たちの計算が速くなることもうれしいけど、友だちが頑張ることを喜んでくれる人がいることがもっとうれしいよ」と話した。計算練習を、単に計算の習熟だけでなく、昨日の自分を乗り越える経験としたり、友だちの頑張りを評価する機会にしたりのすることもできるのである。

漢字の習得も同様である。自分が覚えていた漢字と苦手な漢字は、人それぞれ違つている。自分の苦手なところを知り、そこを練習する。これは、学習の基本的な考えかたである。大人になってからの学習やスポーツも同様である。「勉強は答え合わせをしたあとから始まるのですよ」と子どもたちに話している。

人格の完成といふことを、意識すること、普段の実践も少し変わつてくるはずである。菊池省三先生の「〇年生として成長するだけでなく、人間として成長する」といつことにも通じているのかも知れない。